

JAAA 第29回「広告と人権」セミナー 講師プロフィール



おち たかお
越智 貴雄 氏

写真家。1979年大阪生まれ。大阪芸術大学芸術学部写真学科卒業。

ライフワークとして2000年から国内外のパラリンピックスポーツの撮影取材に携わる。

2004年にパラリンピックの競技スポーツとしての魅力を多くの人に伝えたいとパラリンピックスポーツ専門サイト「カンパラプレス」を立ち上げる。

2012年にはパラリンピック義足アスリートの競技資金集めの為にカレンダーを1万部出版し、国内外で大きな話題となる。

2013年9月のブエノスアイレスで開催された2020東京オリンピックパラリンピック招致の最終プレゼンテーションで、佐藤真海選手のスピーチ中に使用された「跳躍の写真」が、“五輪を呼んだ一枚”と言われ話題となる。

2013年から義足で前向きな人生を送っている女性たちにフォーカスした写真撮影に取り組み、2014年5月に写真集『切断ヴィーナス』を出版。

写真展や義足のファッションショーなどのイベントも開催し、多くのメディアに取り上げられている。

むらかみ さやか

村上 清加 氏

陸上短距離、走り幅跳び選手。1983年生まれ。

2009年、事故により右足大腿切断、義足生活に。

「とても重く感じ、今後これをつけて歩かなくてはいけないと思うと、憂鬱になったのを覚えている」。

義肢装具士の臼井氏を訪れ、スポーツチーム「ヘルスエンジェルス」に参加。義足で走る人に目標を見出す。

義足カバーを外したときの好きなところは、「女性らしさと義足のパイプの強さのアンバランス感に惚れて」。

「義足のかっこよさ」を知ってもらう活動に積極的に参加し、リオパラリンピックを目指している。

2015年10月陸上世界選手権出場。長谷川体育施設所属。

